

学校運営計画 (4月)		評価 (3月)		
<p><b>学校運営方針</b></p> <p>教育基本法並びに学校教育法の理念に則り、生徒一人ひとりを大切にするとともに、学校集団としての連帯感を高め、社会性を育む教育をとおして心豊かな人間形成を目指し、組織的・計画的な教育活動を展開する。  <b>「鍛えて、ほめて、子どもの可能性を伸ばし、明るく元気な学校、専門学科としてのスペシャリストの育成」</b>を目指すために、久留米筑水高校3アップ運動(「キャリアアップ」、「マナーアップ」、「クリーンアップ」)に取り組み教育活動の成果を高める。</p>				
<p>昨年度の成果と課題</p> <p>○成果            1 一人一人を見据えた授業内容の工夫と改善が進み、学習意欲と授業規律の向上が図られた。            2 挨拶、時間厳守など基本的な生活習慣が確立され、マナーアップが図られた。            3 希望進路の多様化に対応できる進路指導を確立し、卒業生全員の進路決定を目指す基盤づくりができた。            ○課題            1 広報活動を見直し、志願倍率の向上を図る必要がある。            2 中途退学者ゼロに向けた取組を強化。            3 多様化する生徒に対応する教育相談体制の充実。</p>	<p>年度重点目標</p> <p>○学習環境を充実し、基礎学力の定着と授業の改善充実を図り、生徒の学力と実践力の向上を目指す (キャリアアップ、クリーンアップ)</p> <p>○基本的な生活習慣の確立と規範意識の高揚を図るとともに、自律心と思いやりのある心豊かな人間形成を目指す (マナーアップ)</p> <p>○専門分野におけるスペシャリストを育成するため、キャリア教育の充実を図り、希望進路の100%実現を目指す (キャリアアップ)</p>	<p>具体的目標</p> <p>学習環境を充実し、基礎学力の定着と学習意欲の向上及び実践力の向上に向け、授業の工夫改善及びきめ細かい指導を行う。            1時間の授業を大切に生徒の理解度を確認するとともに、学習目的の明確化と規律ある授業を展開し、確かな学力の育成を図る。            各学科等の特色を生かした資格取得やコンテスト・各種競技等の指導を充実し、キャリアアップを図る。            学校全体及び授業に取り組む環境と安全・安心な学校環境を作る。</p> <p>挨拶、時間厳守、礼儀作法、掃除、頭髮・服装等のマナーアップの指導を全職員で取り組む。            部活動加入を推進するとともに、活性化を図る。            全教科・領域において、自尊感情の育成、自律心と思いやりのある心の育成を図り、いじめの撲滅と人権意識の高揚に努める。            担任、学年、学科相互の情報共有を図り、スクールカウンセラーや保護者等との連携がとれた教育相談体制のもと、中途退学者ゼロを目指す。            3年間の継続的・組織的な指導体制のもと、効果的な現場実習や外部人材を活用し、生徒の進路意識の高揚を図る。            各学科において、将来のスペシャリストにふさわしい専門知識と技能を身につけさせるとともに、勤労観、職業観を育成する。            生徒の進路保障の観点に立ち、学校から社会への円滑な移行を図るため、全職員で企業訪問を行う。            生徒の学校から社会への円滑な移行を図るため、全職員で企業訪問を行う。</p>		
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価 (3月)	次年度の主な課題
教務	基礎・基本を重視し、確かな基礎学力の定着を図る。	授業アンケート・生活アンケート等の調査をとおして生徒の実態を把握する。 習熟度別・少人数授業の充実を図る。 外部特別講師招聘授業等、地域の教育力の積極的な活用を図る。	B C B	<ul style="list-style-type: none"> <li>進路実現に活かせる位の基礎学力は身に付いたが、今後は、全国一斉の模試が計画されており、その活用法を検討していく必要がある。</li> <li>アンケートの結果を課内では十分に分析できたとはいえず、次年度は活用する。</li> <li>今年度は、各教科・各学科に新しい評価標準に向けて話し合いをした。</li> <li>観点別評価に関しては来年度も徹底していく必要があるため、研修会を行ったが、今後は更に研修部と連携をしていながら、公開授業等で教員側に意識を高めていく。</li> </ul>
	授業改善のために、新しい教育方法を研修・実践する。	研修部と連携し、分かる授業をするための研修の機会を設定する。 アクティブラーニングを取り入れた授業を展開する。	A C	
	生徒の実態に合わせて、教育内容の見直しを図る。	情報処理室・視聴覚教室等・電子黒板等、教育設備の整備と有効活用を図る。 評価の改善、観点別評価の導入を行う。 大学進学に対応できる学力の育成に向けた体制作りを行う。 教務内規の見直しを図る。	A B A	
	全教科・科目をとおして授業規律を守り、授業に集中できる環境作りを行う。	教科担当者等において、生徒の情報等を共有し授業改善につなげる。 学年・学科、生徒指導課等の他分掌や保護者との連携を図る。 生徒の欠席・遅刻の統計を取り、欠席遅刻が多い生徒の指導を行う。	A B A	
企画庶務	各部、各課との連絡調整を行い、円滑な公務運営に努める。	各行事の円滑かつ組織的な連絡調整を行う。 公簿・資料作成を円滑に行う。 学校防災の実施。	B A A	<ul style="list-style-type: none"> <li>行事では、担当者に迷惑をかけたことがあったので、事前計画を綿密にシミュレーションして行事を実施しなければならぬ。</li> <li>創立110周年行事では、計画が遅れて周知徹底できなかったことを今後の行事運営に生かさなければならぬ。</li> <li>・筑水通信は年間計画を事前に作成しておき計画的な発行と本校PRに活かす。</li> </ul>
	PTA、同窓会と連携し、地域に根ざした教育活動を推進する。	同窓会事務局との連携を行う。 PTA活動の推進を行う。 創立110周年記念事業の推進を図る。	A B A	
	広報活動の推進	筑水通信の充実と円滑化を図る。 各種行事の記録を行う。	B A	
生徒指導	基本的な生活習慣の確立	服装指導の徹底継続を図る(学年・学科との連携強化) 全校終礼・登下校指導等の継続実施と効率化を図る。 問題行動へ指導の迅速対応と充実及び指導手引の周知を図る。	B B B	<ul style="list-style-type: none"> <li>登校指導、服装指導等学年・学科との連携を図り生徒指導の更なる充実を目指す。また、問題行動等の指導については、迅速に初期対応を実施し、事象の内容により関連部署と連携し指導してきたい。</li> <li>生徒会活動については生徒会が中心となって文化祭をはじめ関係行事の企画運営にあたることのできる。今後は、関係行事の充実を図るため各種委員会活動の充実を図ってきたい。</li> <li>交通安全指導について今後も交通マナー含め交通安全教室等を実施し継続指導する。</li> <li>危険箇所の定期的な点検を充実させ安心安全な学校や地域の環境づくりが必要である。</li> </ul>
	生徒会活動の活性化	部活動の加入促進のため見学者等の推進と指導者・施設等の条件整備に取組む。 文化祭の成功に向けて取組む。 各委員会の定例化と全校集会の自主的運営と活用を図る。	C A B	
	教育相談の充実	学年・学科との情報共有化に取組む。 個別事象の情報収集と個性を重視した細かな対応と関係機関との連携を図る。 関係校務分掌及び学年・学科との情報共有によるいじめの発見と早期対応の強化を図る。	B A A	
	安全教育の徹底	交通安全教室・SDE等の実施による安全指導に取組む。 危険箇所の点検と指導を徹底する。 自転車・バイクの実技講習の充実を図る。	A B A	
保健	生徒の健康安全に対する意識の向上	保健委員会による健康安全に関する啓発活動と保健便りの充実を図る。 学校行事における事前健康調査を実施し、個別指導につなげる。 保健室と学級担任との連携に努める。	B B B	<ul style="list-style-type: none"> <li>全校朝礼における生徒への健康に関する啓発や、保健だよりの発行など、年々活動が充実してきた。今後は個別の活動から、集団での活動に力を入れていく必要がある。</li> <li>生徒の実態に応じた連携はとれている。しかし、担任が抱え込んでいる場面も見受けられるので学校全体として教育相談へ挙げるよう意図を整える。</li> <li>美化委員会を中心として、生徒たちが積極的に活動し、有意義なコンクールとなった。また、今年度は110周年記念行事に向けて計画的に美化活動を行ったことで全校生徒の美化意識が高まった。掃除道具の購入も生徒の意欲向上に影響したと考えられる。次年度も検討したい。</li> <li>教育相談委員会をさらに活用するため、収集した情報をもとに、どのような手立てを取るのか、どこに協力を求めどこが中心で関わっていくのかなどを整備していくことが課題である。</li> <li>サポートヒートシートを活用し、情報を共有できるようにする。特別支援に関する研修会や勉強会を行い、理解を深めるようにする。</li> </ul>
	学習環境の整備 美しい学校づくり	美化コンクールを継続的に実施し、全校生徒の校内美化意識を高める。 ゴミの持ち帰りと分別を徹底することで、ゴミの減量化を目指す。 美化委員会による校内美化活動やごみ減量化に向けての啓発活動を活発に行う。	A B B	
	教育相談の体制づくり	教育相談委員会の充実を図り、情報を幅広く集めることができるようにする。 必要に応じて個別のケース会議を実施できるようにする。 面談週間やいじめアンケートによりいじめ等の早期発見・早期対応に努める。 カウンセラーを最大限に活用した教育相談の新たな体制を整える。	A B A	
	特別支援教育の体制づくり	サポートヒートシートを活用し、情報を共有できるようにする。 特別支援に関する研修会や勉強会を行い、理解を深めるようにする。	C B	

## 平成29年度 学校自己評価表 ( 計画段階 ・ 実施段階 )

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)	次年度の主な課題
進路指導	生徒理解に努め、ミスマッチのない進路指導を行う	就職希望生徒全員との面談を実施する。 就職希望生徒全員へ面接指導を実施する。 提出書類作成から出願までの流れについて保護者と連携をとる。	A A B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒との面談を実施し、生徒理解に努め、ミスマッチのない進路指導を行う。</li> <li>・企業訪問については、次年度も人事担当者の来校が多いと見込まれるため、企業訪問は絞り込みを行い実施する。</li> <li>・次年度は、基礎学力テストの完成年度より、受験先のデータを蓄積していく。</li> <li>・各学年の進路ガイダンスを充実させ、3年間の進路学習の流れの再構築を行う。</li> </ul>
	各学年の進路学習の流れの再構築	進路学習HRの指導案を各学年で見直し作成する。 進路学習HRに「進路の手引」を活用する。 1年進路ガイダンスの企画し、3年間の進路行事を系統的に繋がるようにする。	B B B	
	企業訪問の充実	学校全体の企業訪問の計画を作成し実施する。 昨年度内定をいただいた企業を中心に訪問を行う。	C C	
	基礎学力の定着を図る企画を考える	基礎学力テストを教科指導に活用する。 担任による二者面談および三者面談に充実を図れるよう研修会を実施する。 模試結果のデータを学年・教科担当者へ発信する。	B A C	
	生徒募集の取り組みを積極的に行う	各部・各学科と協力して新HPの作成を推進し、早期の立ち上げを行い、生徒の活動内容などの新しい情報を数多く発信する。 中学校訪問や進路説明会・進路相談事業、校外における広報活動を積極的に行い、生徒の活動内容や特色を伝える。 校内において、中学生体験入学や学校説明会を行い、本校を理解してもらう機会を設ける。	A A A	
広報	生徒の活動の情報発信と安全な情報管理体制の確立を図る。	パソコン及びサーバーのウィルス対策を徹底し、校内の安全なネットワークを構築する。	A A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度やっとなりHPをリニューアルし、各学科の活動内容や学校行事や部活動の状況を積極的に発信することが可能になった。次年度更にHPを充実させ、効果的な発信となるようにしたい。</li> <li>・中学校訪問や体験入学などの広報行事は比較的順調に実施できた。次年度も計画的に実施したい。</li> <li>・広報の各行事における業務内容も多岐に亘り、業務量も過大なため、次年度は会議による綿密な計画を経て行いたい。</li> </ul>
	広報活動の組織化・体系化を図る。	年間活動の流れと役割分担を明示し、組織的・計画的な広報活動を行う。 学事部・企画庶務課・各学科との連携を強化する。	A A	
	わかる授業の推進に取り組む	研究授業を通して各教科の授業改善に繋げ、授業の充実・活性化を図る。 授業アンケートの分析を基に授業改善に繋げる。	B B	
図書研修	職員研修により、職員の資質向上を図る	校内外での研修を推進する。 効果的な職員研修を企画・立案する。	A B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当該教科担当が参観する為の授業態勢を整えることや他教科の視点から授業改善の工夫のヒントを得る為に他教科の参観者を増やすことが課題である。</li> <li>・授業改善を迫られている教科担当が現状を真摯に受け止め、どの様に改善していくかが今後の課題。けじめある授業の為にHR・教科担任の連携・協力が必須である。</li> <li>・教務・進路・生徒指導を中心として、生徒理解に繋がる研修を年3回を基本として行う。</li> <li>・新入生へ向けての図書館オリエンテーションの時間確保。</li> </ul>
	1年間の研修成果をまとめて研究紀要を発行する	各種研究等の推進と情報収集に努める。 研究紀要を発行し、成果を共有する。	B B	
	図書の充実、図書館の利用向上を目指す	蔵書の充実をすすめ、貸出し冊数を増やことに努める。 図書館利用のマナーアップを図る。	B B	
	図書委員会活動を活発に行う	カウンター当番や本棚の整理など校内活動の定着を図る。 他校との交流を図るとともに文化祭の成功に繋げる。	B A	
	基本的な生活習慣の確立	挨拶・集合・服装等の指導を学年全体で協力し、日常的に行う。 遅刻・欠席を少なくし、生徒の動態を把握するために、家庭との連絡を密に行う。	A A	
第1学年	基礎学力の定着	定期考査に向けて、学年と学科及び教科連携し、組織的に指導する体制を整える。 基礎学力診断テストを活用し、教科担当者会を実施して、生徒の情報の共有を図る。	C B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路指導課と連携し、進路学習を充実させ、早期に目標を決定させ、その実現に向けて努力させる。</li> <li>・修学旅行の成功に向けて、事前指導を通じて自主性や規範意識の向上に努める。</li> <li>・遅刻・欠席者数の減少のために、生徒との面談や家庭との密な連絡を継続的に行う。</li> </ul>
	キャリア教育の充実と進路に対する意欲の喚起	各学科と連携し、専門分野への興味・関心を高めるとともに、資格・検定を積極的に取得させる。 進路指導課と連携し、情報提供を充実させ、進路への関心を高める取り組みを行う。	A A	
第2学年	授業規律の確立と基本的な生活習慣の定着	教務課との調整のもと教科担任会を実施し、各教科担当との情報の共有を図る。 教室や実習室などの整理整頓に努め、落ち着いた学習環境を整備する。 家庭との連絡を密に行い、安易な遅刻・欠席を防ぐ。	B B C	<ul style="list-style-type: none"> <li>・遅刻・欠席者数の減少のために、学年、教科担当者など多くの先生方からの声掛け、指導を行う。</li> <li>・生徒との面談および家庭との連携を密にし、進路選択において適切な指導・助言を行う。</li> <li>・基礎学力向上および就職試験・大学受験などに向けて教室の整理整頓を徹底し、学習環境を整える。</li> <li>・体育祭の成功に向けた集団作りを全体で連携して行う。</li> </ul>
	規範意識の高揚	文化祭において各学科の取り組みに積極的かつ意欲的に参加させ、周囲と協力する態度を養う。 修学旅行および事前指導を通じて、集団行動や時間厳守などを再度徹底させることで自主性や規範意識を高める。	A A	
	キャリア教育の充実と進路意識の高揚	進路指導課と連携して、進路意識を高めるための取り組みを充実させるとともに、基礎学力診断テストの結果を有効に活用する。 各学科と連携して専門分野への興味・関心を高めさせ、資格・検定に対して自主的に取り組む態度を養う。	A B	
	基礎学力の定着と全員の卒業	課題を抱えた生徒に早期に対応するため、教科担任会等を通じ、各教科担任との情報の共有化を図る。 教室の清掃、荷物の整理整頓を徹底し、落ち着いた学習環境を整備する。 家庭との連絡や三者面談で家庭との共通認識を図り、遅刻・欠席をなくす。	B B C	
第3学年	規範意識の高揚と指導力の伸長	学年団全員が組織的に指導しやすい体制を確立するため、学年集会において、副担任および学年所属教員による講話等を実施する。 積極的な挨拶を習慣づけるため、教員から挨拶、声掛けを行う。 年間を通じ、全校集会や式典における服装の指導を徹底する。	D A A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・副担任および学年所属教員による講話は、進路指導等の関係で時間が確保できず、今年度は実施できなかった。次年度は新1学年が対象となり、学年団の連携した指導体制がさらに重要になると考えられるので、ぜひ実施したい。</li> <li>・進路に関しては、今年度、就職・進学ともに、進路指導課や各学科と連携が取れ、順調であった。ただ、ぎりぎりまで志望先を決定できない生徒もおり、早期からの意識づけの重要性をあらためて感じた。次年度は、このことも念頭に置き指導していく。</li> </ul>
	希望進路の100%実現	文化祭等の学校行事において、最上級生として下級生を指導できるよう、学科と連携して指導していく。 創立110周年にあたる年の最上級生として、学校に対する帰属意識を喚起し、学校を代表するにふさわしい態度を身に付けさせる。 進路指導課や各学科と連携し、企業訪問や学校説明会への参加を積極的に行い、進路開拓に努める。	A A A	
		進路指導課と連携し、家庭に対して進路情報を積極的に提供する。 三者面談を活用し、家庭の考えの把握や共通理解の確立を図る。	B A	
		進路指導課と連携し、進路の手続きのチェック体制を強化する。	A	
			A	

## 平成29年度 学校自己評価表 (計画段階 実施段階)

福岡県立久留米筑水高等学校長 印

No3

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)		次年度の主な課題	
農務	農業クラブ活動及び実験実習施設・設備の充実と有効活用	農業クラブ活動(意見発表・プロジェクト発表・農業鑑定競技)の推進 資格取得(農業技術検定・フォーカト技能講習・危険物取扱者試験) 学習内容の充実及び農業スペシャリストの育成	A	A	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>農業クラブ諸行事において全国大会出場を目指すため、農業3学科連携し、教科指導を計画的に実施する。</li> <li>外部講師による研修、農業関係機関との研修会を行い、教員の研鑽を積み、授業内容の充実、人材育成に取り組む。</li> <li>販売所の活用において生徒自身による販売形態の確立を図る。</li> </ul>
	各学科の連携と販売所運営の推進	教員間の情報共有(学科主任会議及び農務会議の定例化、職員研修の推進等)	B			
	農業関連産業並びに関連機関との連携	販売生産物(野菜・花・加工品等)の販売促進 地域やIA・改良普及センター・地域企業等との連携	A			
		職員研修の充実(各研修会への参加、報告会等)	B			
生物工学科	プロジェクト学習を中心とし専門教育の充実	「農業と環境」総合実習「課題研究」の科目で基礎から応用まで発展的な学習体系を継続し、内容の充実を図る。 農業クラブ活動への積極的な参加と競技の上位入賞を目指す。	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>農場運営と実験実習の効率的な展開を行うことでプロジェクト学習の内容充実を図る。選択課外受講者が増えない状況であれば、選択必修課外を学科で立ち上げる。</li> <li>バイオ技術者認定試験は全員合格を目指す。</li> <li>授業内で指導できる資格は80%以上の合格を目指し、課外での指導も強化する。</li> <li>基本的な生活習慣の確立(遅刻者、挨拶、言葉使いの指導)。</li> <li>実験実習ではノートの評価、文章の添削も行ない文章力をつけさせる。</li> <li>授業の中で進路について考えさせる機会を持つ。</li> </ul>
	資格取得の合格率アップに向けて取り組む	意識の向上を図り、積極的に取り組ませる。 バイオ技術者認定試験は全員合格を目指す。	A			
		授業内で指導できる資格は80%以上の合格を目指し、課外での指導も強化する。	B			
	生徒の進路決定に向けて取り組む	基本的な生活習慣の確立(遅刻者、挨拶、言葉使いの指導)。 実験実習ではノートの評価、文章の添削も行ない文章力をつけさせる。	A			
食品流通科	進路の実現	3年間を通して行う成績不振者を出さない指導。 遅刻・欠席の減少。 資格取得を推進し、基礎学力の向上を図る。	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>現場実習について流通の仕組みを知る機会になっているが、新規の開拓につながっていない。望ましい勤労観や職業観の育成し他業種の新規開拓が必要。今後は製菓業や加工業などへの実習先の掘り出しが必要である。誰が、いつ、どのように実習先の開拓を行うのか。それぞれが抱えている業務負担を考える必要あり。</li> <li>今後もホームページを活用した情報発信を行って、新商品の紹介をする事で中学生の興味関心を集められるように努める必要がある。</li> </ul>
	外部から見える取り組みを行い、入学希望者を増やす活動を行う。	学区内企業や団体と協力した商品作りを行い学習内容が見える活動を行う。 実習を通して生徒の技術力、安全意識の向上を図る。	B			
	校内でのマナーアップ	地域住民・学区内中学生に対して学科のPRができる授業展開を行う。 生徒の言葉遣い、挨拶、時間を守る指導を行う。	B			
		学科集会を行い指導の周知統一を図り徹底する。 教室および実習室の学習環境を整え、学習に集中できる指導を行う。	A			
環境緑地科	学習環境を充実させ、スペシャリストの育成に努める。	授業・実習内容の精選と計画的展開の見直しに努める。 授業・実習を通して進路意識を高め、早期の進路指導を推進する。 専門資格の取得向上を目指す。	B	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>実習終わりの記録時間を確保し、いつ何を行ったかが確認できるようにする。</li> <li>平日頃から教員の資質能力向上を図り、お互いの技術の継承を心がけ、長期休業中等には研修の場を設ける。</li> <li>生徒指導や進路指導に当たっては生徒の動向に注意を払い、情報を共有し、指導に当たる。</li> </ul>
	基本的な生活習慣の確立と心豊かな人間形成の育成に努める。	座学・実習ともに、記録の時間を設定し、書く習慣をつけさせる。 日頃の授業や実習において、服装・態度の指導を徹底する。	C			
		学習意欲の喚起や規律を遵守させる。	B			
	地域・企業との連携を図る。	現場実習の充実発展に努める。 校外実習でのマナー・キャリアアップに努める。	A			
社会福祉科	豊かな感性と人間性を備えた実践力ある生徒の育成と基礎学力の向上	分かる授業、チームティーチング、ICTの活用、アクティブラーニング、個に応じた指導等、授業の工夫・改善を行い、学習意欲を向上させ、基礎学力を定着させる。 計画的な授業の実施(授業時間の確保)と教科間の効果的な連携を行う。	B	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>ITを活用した授業に関しては、電子黒板の使用できる場所に限られており、有効的な活用ができなかった。また、T・Tにおいては、中身を充実する必要がある。</li> <li>授業の開始時などに挨拶や服装等に関して指導を行ったが、少人数だが、遅刻、提出物の遅れ、忘れ物がみられるため、継続して取り組むとともに個別的な指導を丁寧に行う必要がある。</li> <li>教育課程については、新学習指導要領の内容や介護福祉士養成カリキュラムの改正を踏まえながら、引き続き検討していきたい。</li> </ul>
	基本的な生活習慣の確立と自律心と思いやりのある生徒の育成	自律心と思いやりをもつ情懷豊かな生徒の育成を図る教育実践を行う。 時間の厳守、挨拶、服装等の基本的な生活習慣の確立を図る。	A			
		生徒の意欲を喚起するための授業実践と達成感のある学科行事等の取組を実践する。	B			
	介護福祉士資格全員取得への取組の充実と希望進路100%実現	課外・校内模擬試験等の実施と結果の分析を行い、生徒の実態に応じた丁寧な指導を徹底する。 進路実現に向けた職場開拓と分掌間の連携を図り、効果的な進路指導を実践する。	A			
食物調理科	完全進路保障の実現	毎週の学科会議で生徒の動態・希望を把握し、進路実現100%を目指す。 就職・進学先に適応させた面接指導と論文指導を丁寧に実施する。 校外実習先新規開拓を行い、就職まで継続できるように継続した活動をする。	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>調理技術取得の困難な生徒に対する早期対処法を検討し、夏期休業中での終了を目指す。</li> <li>生徒の就職先開拓を全職員で取り組む。卒業生とのネットワークを密にして、情報収集にあたる。</li> <li>調理師養成施設の意味を生徒によく理解させ、専門高校としての内容充実を目指す。</li> </ul>
	専門教科内容の指導充実	毎時間、調理実習での調理技術向上の細かい丁寧な指導を実施する。 食育インストラクター、食生活アドバイザー3級の全員資格取得。	A			
		食に関する最新情報を常に知らせ、時代に適合した調理師を目指す。 校外実習での個人評価表を生徒指導に活かし、スキルアップに繋ぐ。	B			
	学科行事の精選と効率化	高齢者食事会の運営をさらに改善し、地域との交流を効率よく深める。 施設見学の実施先内容を検討し、調理に合ったより良い成果を目指す。	A			